第２学年　道徳科学習指導案

１　主題名　　友達と仲良くし、助け合うこと（Ｂ友情，信頼）

２　教　材　「モムンとヘーテ」　参考資料「ゆたかなこころ」光文書院

原作　松坂忠則『ふたりの小人』

３　主題設定の理由

（１）子どもの実態について

　本学級の子どもたちは、明るく元気な子が多いが、仲が良くなるにつれ、自己主張をしたりわがままを言ったりする子も増えてきた。休み時間の鬼ごっこ、体育の学習でのドッジボールやリレーなど、ルールを話し合って決めたにもかかわらず、勝敗を受け入れられずに勝手な言い分を訴えて怒る子や責められてすねる子も何度か見かけた。相手の立場や状況を顧みず、自分のことを正当化して強い口調で訴えているが、そうした言動に傷ついている子もいることは確かである。しかし、落ち着いて話をしていくうちに、相手のしたことだけでなく、自分のしたことも反省することができるようにもなってきている。どんなときにも、相手の気持ちや立場を理解しようとし、思いやりのある行動をとることができるようにしたい。

（２）道徳的価値について

友達は家族以外で深いかかわりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、お互いに影響し合って築き上げていくものである。

子どもたちにとって、友達関係は、大切な人間関係のひとつであり、その状況によって学校生活が楽しいものになったり、そうでないものになったりすることも少なくない。集団生活をする上で、誰もがより良い友達関係を築き、楽しく過ごすことができるように、相手のことを考え、共に助け合おうという気持ちをもつことの大切さを感じさせたい。また、けんかしたり、相手に嫌な思いを抱いているときでも、友達が困っていたら手を差し伸べられる優しさや思いやりをもてる子どもたちに成長してほしい。

（３）教材について

この教材は、「ふたりの小人」という物語で、登場人物は、モムンとヘーテという森の中に住むうずら豆くらいの大きさの小人。「栗の実を独り占めした意地悪なヘーテ」を「意地悪されたモムンが悩んだ末にヘーテを助けた」ところに道徳的価値がある。「意地悪をされたモムンが黙っているところ」に悩みが感じられ、「相手を許して助ける」か「仕返しとして見捨てるか」の葛藤がある。ヘーテの「自分の行き過ぎた行動を反省する気持ち」や「相手を気づかう思いやり」のある言動も考慮しながら、モムンが何を悩み、どうしていくのかを話し合うことで道徳的な価値を見つけていきたい。

教材の内容が子どもたちの実生活から遠い内容であるが故に、登場人物の立場や状況をきちんと把握させたい。また、うわべの心情読解にならないように、教材を３つに分割して提示することにした。自分の意見に理由づけをしたり、友達の意見をどう思うかなど問いかけたりして、話し合いを広げたり、深めたりしていきたい。

**（４）豊かな心とたくましさを育むための手だて**

**①豊かな心を育むために**

　・切り返しと役割演技で考えを深める

意地悪されたモムンが、窮地に立たされて何も言わずに黙って考えている場面の話し合いで、「助ける」という正当な意見ばかり出た場合は、教材文①を振り返り、ヘーテが栗の実をすべて持っていった事実とその時のモムンの気持ちを思い出すように切り返し、「見捨てる」「助けない」などの思いもあることを押さえたい。そういう思いがあっても、やはり、友達はかけがえのないものであり、助け合うことが大切であることに気づかせたい。

活動５において、モムンが悩んだ後に、「いっしょににげよう。」と言った理由を考えて、役割演技にして伝える。教師がヘーテ役になり、モムン役である子どもの意見を尊重しつつ、切り返しをして、考えを深めさせたい。演技を見ていた子どもたちにも内容についての感想を聞きながら、本時の道徳的価値により迫っていきたい。

**②たくましい心を育てるために**

・いかなるときも友達を思いやる寛容な気持ちをもつ

栗の実を独り占めしたヘーテが、洪水で窮地に陥ったとき、モムンが何を考えていたのかについて、話し合う過程を評価する。意地悪なヘーテに対する反感の気持ちから、徐々にかけがえのない友達を思いやる気持ちへの変化に気づけたことを大いに認めたい。

今まで行った「友情，信頼」の学習で取り上げなかった自分が窮地に立たされたときの友達とのあり方について考えを深められたかを、学習の終盤の振り返り（活動６）でワークシートに記述してまとめる。そして、それを全体に広げることで友達の思いも知り、お互いをより理解させたい。

**③21世紀を生き抜く資質を養うために**

・学習を実生活に生かし広げる

学んだことが実生活につながるよう、普段の生活のグループ活動や休み時間の過ごし方などを見守っていきたい。帰りの会に行う「今日のはなまる」の発表で、友達や担任が見つけた思いやりのある行動を伝えることで個人または学級の成長を期待する。

４　本時の目標

1. 登場人物の状況や立場を理解し、葛藤場面を考える活動を通して，仲良くすることの大切さに気づかせる。
2. 友達に意地悪されたり、悪口を言われたりしても、友達が困っていれば素直な気持ちで、助け合おうとする態度を養う。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 児　童　の　活　動 | 教　師　の　活　動 |
| きづく  (5)  つかむ  (5)  ねる  (15)  ふか  める  (10)  みつ  める  (10) | １　どういう人を友だちと言いますか  ・いっしょに遊んでくれる人。  ・やさしくしてくれる人。  「友だち」について考えよう  ２　教材文①(栗の皮を残して中身を持っていって  しまうところ)で気になったところはどこですか  ・ヘーテが実を全部持っていったところ。  ・モムンが皮だけでかわいそう。  ・ヘーテは本当に友だちなのかな。  ・実を二つに分ければいい。  ・ヘーテはひとりじめしている。  ３　教材文②（モムンが口を開こうとしないところ）  で気になったところはどこですか  ４　モムンはだまって何を考えていたのでしょう  [許さず、助けない]→ヘーテは悲しい。怒れる。  ・ヘーテを許せない。助けたくない。  ・きのう、実をくれなかったから自分だけにげる。  ・やられたから仕返しをしたい。  [許して、助ける]→ヘーテはうれしい。ありがとう。  ・友だちが困っているから助けよう。  ・おぼれちゃうから仲直りしていっしょににげる。  ・謝っているし、友達だから、許してあげようかな。  [条件付きで助ける]→ヘーテはうれしい。ありがとう。  ・ちゃんともう一度謝ったら許してあげる。  ・これから意地悪しないなら助けてあげる。  ５　教材文③で「いっしょににげよう」と言ったの  　はなぜだろう  ・ヘーテは大切な友だちだから。  ・自分だけが助かって、ヘーテが死んでしまうのは悲しいから。  ・ずっと友だちでいたいから。  ・困ったときに助けるのが本当の友だちだから。  ６　今日学習したことは、これからの生活でどんな  ことに生かしていけそうですか  ・意地悪されても、友だちが困っていたら助けてあげる。  ・けんかして怒れちゃっても、仕返しをしない。  ・失敗しても、声をかけてはげます。  ・友だちのことを考えて、ひとりじめしない。  ・「ごめんね」と言われたら、すなおに許してあげる。  ・けんかしても、助け合う。  ・自分から仲直りするようにする。  ・嫌なことやられても許してあげる。  ・友だちが悪いことをしても、困っていたり、すごく大変だったりしたときには、手伝ってあげる。 | ・どの子も友達がいることを確認して、ねらいとする道徳的価値への方向づけをする。  ・学習テーマを知らせる。  ・教材文「モムンとヘーテ」を紙芝居にして提示する。  ・教材文①を読み、一緒に見つけた栗の実なのに、ヘーテが勝手な分け方をしたことや、モムンの納得していない気持ちを子どもの発言を生かし、アンダーラインを引いて強調する。  ・モムンの葛藤や行動へとつなげるために、ヘーテの行動が許せるか許せないかを問う。  ・教材文②を読み、学習課題を決めて、話し合いを深める。  ・ワークシートを配付し，考えを書く時間をとる。  ・個人の考えを把握し，話し合いや指名に活用する。  ・「助ける」という意見ばかりだった場合は、活動２にもどり、意地悪されたモムンの気持ちを確認する。モムンの中に助けたくないという気持ちがあることを出すために「意地悪されても助けるのか」と切り返す。（手だて①）  ・自分の行動を反省して謝ったり、モムンだけを助けようとしたりするヘーテの思いにも触れる。  ・教材文③を読み、モムンの行動は、二人ともがすっきりとした気分になれることを確かめる。  ・役割演技を通して、ヘーテ（教師）がモムン（児童）に助けた理由を問い、本時のねらいに迫る。（手だて①）  ・ワークシートへ記入する際に自分事として考えやすいように「ぼく（わたし）は、」を主語として書き始めるように指示する。  ・自分の生活を振り返り、本時の道徳的価値を理解して生かそうとする考えをもつことができた子、また、友達の意見を真剣に聞いている子どもなどを称賛する。（手だて②）  ・普段の生活の中で、本時の学習で学んだことを実践していけるように促す。 |

６　評　価

1. モムンの葛藤場面において、何を悩んでいたのかを中心に考え、話し合うことを通して、どんな状況下であっても、お互いに思い合い、仲良くすることの大切さに気づくことができたか。　　　　　　　　　　　（活動４、５、６の発言、ワークシートの記述から）
2. 友達の意見を聴いたり、自分の考えや生活を振り返ったりすることを通して、友達が困っているときには、相手の気持ちを理解して、助け合おうという気持ちを高めることができたか。　　　　　　　(活動６のワークシートの記述，その後の行動の様子から)

７　板書計画

・かわいそう

・おこれる

・はんぶんずつにしよう

・かなしい

・ずるい

・ひとり

じめ

・本当に

友だち？

・自分か

って

・たすけてあげよう→あやまってくれたから。

・おぼれたらかわいそう→もうあそべなくなるかもしれないから。

・なかな直りしていっしょににげる→にもつより友だちが大切だから。

「きのうはごめんね」

「ぼくはいいから、

ひとりでにげて」

これからの生活で生かせそうなこと

・けんかをしても

自分からなか直りする。

・友だちがわるいことをしても、こまっていたらたすけたり、手伝ったりする。

・ずっと友だちでいたいから、いやなことされても、だまってないでゆるしてあげる。

友だち

とは？

・いっしょにあそぶ人

・やさしくしてくれる子

・そうだんできる子

モムンは、だまって　何を　考えていたのかな

ゆるさない

ゆるす

教材文②の絵

（モムンが黙っている所）

モムンの絵

ヘーテの絵

「モムンとヘーテ」

・ひとりでにげる

→栗の実をくれなかったから。

・たすけない

→へーテがわるいことをしたから。

・しかえしでじぶんだけにげる

→おこれているから。